

## 8-4-5 公益活動WG

### 1. 設置目的と組織

#### (1) 公益活動WGの設置目的

本WGは、建設コンサルタント会員全般の技術力向上と公益活動を目的として、以下の方策に取り組んでいる。

- ① 本省・国総研・土研と建コン協との技術的連携・協議事項に関する窓口機能
- ② コンサルタント相互の技術支援制度の創設
- ③ 発注者からの技術相談窓口の設置
- ④ 国総研・土研との分野別実務者レベルの意見交換会の開催
- ⑤ 本部・支部活動成果（技術資料）の共有ならびに発注者への配布
- ⑥ その他 会員相互および公益に関する活動

#### (2) 組織

令和元年5月組織改編に伴い、統括技術委員会副委員長代表4名から構成される組織となった。活動が道路および道路構造に関する技術的事項に限定されているため、現時点では組織を縮小し、課題に関係する委員のみで構成されている。

### 2. 活動記録

本WGは、本省国道・技術課、技術調査課、国総研・土研の道路・橋梁担当者及び研究者と建コン協との窓口としての活動が主である。委員自ら実施することの他に、改定道路橋示方書連絡WG、道路橋技術相談窓口対応WG、道路構造物専門委員会と連携して活動している。

令和3年度の公益活動WGの主たる活動は、国総研との共同研究の体制構築と研究の実施である。本年度、参画した国総研との共同研究は、以下の2題である。

#### (1) 既設道路橋群の維持管理計画の継続的改善に関する共同研究(以下 維持管理計画)

本研究体制は研究責任者の下、道路性能評価手法、将来推計手法の統一、法定点検の解釈基準の統一の3つのWGから成り立っており、それぞれ各WG長を中心に研究活動を行っている。なお、本研究は、国総研の他、京都大学、大阪大学、京都府、茨城県との共同の下で実施されている。

中間報告として、「性能保証型インフラセットマネジメントの実現に向けて」（2月22日 京都大学主催共催建コン他）が開催され、研究成果の一部が発表された。

#### (2) 道路橋の性能評価技術に関する共同研究(以下、性能評価)

本研究は、性能評価手法に関する研究であり、国総研、日本橋梁建設協会、プレストレス・コンクリート建設業協会、日本建設業連合会との共同研究である。本研究は、令和4年度も継続となり令和5年3月終了予定である。

#### (3) 建設コンサルタンツ協会が取り組む品質管理について講演(令和3年11月12日)

土木学会鋼構造委員会主催第41回鋼構造基礎講座「H29 道示改定後の鋼道路橋の設計に関する課題と取り組み」の一環として「道示による設計成果の品質確保の取り組み」につて発表した。発表内容は以下の通り。

1. 建設コンサルタンツ協会の紹介
2. これまでの改定道示に対する品質確保に関する活動 ( 2.1 品質確保に向けた活動内容 2.2 技術相談窓口の開設と運用 2.3 照査計算(ダブルチェック)実施要領の配布 2.4 ダブルチェック(照査計算)結果 2.5 計算ソフトウェアの機能の確認 2.6 照査マニュアルの作成)
3. 第三者照査の実態調査
4. 今後の照査体制の検討 5. まとめ

#### (4) 意見照会対応

道路協会から依頼の下記の2書籍について、意見照会を行った。

- a) 鋼・合成構造標準示方書\_総則・構造計画・設計編
- b) 杭基礎設計施工便覧

#### (5) 道路協会委員選出依頼対応

- a) 道路協会コンクリート小委員会SWG委員選出

#### (6) その他

1月20日 「橋、高架の道路等の技術基準改定に伴う設計要領委員会」オブザーバー参加  
(公益活動WGWG長 鈴木 泰之)